

邪馬台国の謎に惹かれて

会員 槌田鉄男（富士見市）

小学校高学年で初めて知った邪馬台国は遠い寓話の世界でした。その頃、近畿か九州か江戸時代から続く論争は文献主体だったはずですが。しかし1990年ころ佐賀の吉野ヶ里遺跡が見つかり今世紀になって奈良の纏向遺跡が3世紀のものだと分かると多くの歴史愛好家も加わり邪馬台国論争は一気に盛り上がってきました。

私は退職後、韓国の大邱広域市に3年間滞在し帰国後持て余す時間を趣味としての古代史に求めることにしました。しかし、元エンジニアがこの世界に首を突っ込むのは容易なことではありません。そんな中、歴史に触れるため最初に訪れたのが埼玉県立歴史と民俗の博物館です。学芸員の方の説明を受けながら歴史への好奇心が徐々に増し、友の会に入ると同時に他の複数の古代史の会にも通うようになりました。

しかし、これまでの仕事の経験が耳から入る情報をそのまま受け入れることを拒否します。次々と疑問が湧いてくるのです。中でも纏向遺跡は最大の謎でした。なぜ3世紀に突然出来たのか。そこに誕生した前方後円墳はなぜ北は会津から南は鹿児島にまで一気に広がったのか。その謎の明解な答えをどこにも見つける事ができませんでした。

一方、高校時代に知った江上波夫氏の説は非常に魅力的でした。5世紀前後に騎馬民族が来て大和地方の在来王朝を征服したと言うこの説はずっと私の脳裏に居座り続けていました。誕生間もないヤマト王権がなぜ朝鮮半島に進出し中国王朝に覇権を求めるまでになったのか。白村江では当時の超大国・唐に挑み、なぜそうまでして百濟を助けようとしたのか。この説はこれらの謎を一番よく説明できます。そんな中、纏向の箸墓古墳から出た木製のあぶみ鐙の存在を知ったことが“3世紀に騎馬民族が来た”と言う仮説を寄せたのです。前方後円墳の急速な拡がりには馬による交通手段のイノベーションだったに違いない。その痕跡を捜す旅が始まり近畿、九州に留まらず韓国や中国にまで足を延ばし、訪れた遺跡を前に想像力と創造力を膨らませ、いくつもの講演会と議論に加わりました。

そうすると魏志倭人伝の解釈が全く別のものに思えてきたのです。倭国には馬がないとしながらなぜ多くの馬の字があるのか。それは5つの国名と4つの官名に使われています。弥生時代にはなかった殉葬がなぜ卑弥呼の死では行われたのか。殉葬は魏志扶余伝にその記載があります。さらには晋書倭人伝などに登場する公孫氏がなぜ魏志倭人伝には登場しないのか。多くの疑問が湧いてきました。そして友の会員になって5年が経ち全てが解けたと確信するまでになり本にすることにしました。タイトルは『九州の邪馬台国 v s 纏向の騎馬民族』。勢い余っての自費出版で家族の説得に気をもみましたが令和元年10月やっと出版にこぎ着けました。これで孫たちへのいい置き土産が出来たと思っています。

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-------------|----------------------------------|---------|
| ○ 2月21日 (金) | 円空仏研究会 | <前号で紹介> |
| ○ 2月22日 (土) | 古道倶楽部「第32回古道を訪ねて 日光道中」 | <前号で紹介> |
| ○ 2月23日 (日) | 講演会「中世武士と馬」 | <前号で紹介> |
| ○ 3月1日 (日) | 古代文化を考える会「渡来後の「倭人(天氏)」と「日本語」の起源」 | <今号で紹介> |
| ○ 3月6日 (金) | まち歩き研究会「桶川宿と文化財散策」 | <今号で紹介> |
| ○ 3月11日 (水) | プレミアム講座「妖怪談議—河童で読み解く民俗学」 | <今号で紹介> |
| ○ 3月19日 (木) | 見学会「人形博物館と人形工房見学」 | <今号で紹介> |

クラブ活動 (活動・募集)

◆新しい視点で学ぶ日本の古代史◆

2020年(令和2年)3月1日(日)に「古代文化を考える会(第4回)」

≪日時≫2020年(令和2年)3月1日(日) 13時00分~16時00分

≪場所≫当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車

≪テーマ≫渡来後の「倭人(天氏)」と「日本語」の起源

倭人は「紀元前1200年」ころは中国呉地方に居た。「約1000年」をかけて中国大陸を北上し、渤海沿岸をまわり、朝鮮半島南部に建国(前200年ころ)した高天原を経て「紀元前120年」ころに福岡市西区に渡来(天孫降臨)した。一部は有明海から肥前南部に上陸して、吉野ケ里遺跡や託田西分遺跡などを造る。「天氏」はその後福岡市西区から福岡県前原市に移り、「伊都国」を建国する。それから対海国・一大国・末廬国・奴国・不彌国を支配して「伊都国王朝」を樹立する。そしてこの渡来倭人が日本の基盤になると同時に日本語をももたらしたという。日本語は近縁の言語がない孤立言語であるといわれいまだ定説もない。倭人の形成を通して日本語の起源を解き明かしていただく。

≪講師≫佃 収 先生

≪費用≫資料代として 500円

≪問い合わせ先≫斉藤 048-853-6728

【初めて当研究会への参加を希望される方は、①「普通ハガキ」(埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会)宛てー「古代文化を考える会」への参加の他、氏名・住所・会員番号・電話番号、を明記)、または②「友の会ホームページ」を通してお申し込みください。入会費は不要ですが、資料代として都度500円をお願いしています。これまで参加されたことのある方(参加はしていないが申込済みの方含む)は連絡不要です。】

◆宿場町・桶川の史跡と文化財散歩◆

2020年(令和2年)3月6日(金)に「まち歩き研究会」

≪日時≫2020年(令和2年)3月6日(金) 10時30分~15時00分頃

≪集合≫JR高崎線・桶川駅改札前 午前10時30分 集合(10:45分のバスに乗車・小雨開催)

≪費用≫交通費(バス代100円他)は各自負担。保険と参加費用:300円

≪概要≫中山道の宿場町として栄えた桶川には現在でも街道沿いに当時のおもかげや史跡・旧跡が残ります。さらに明治以降も野菜や特産品である「べに花」などの集散地として繁栄し、堂々たる蔵造りの店や稻荷神社の灯籠などがその面影を伝えています。

≪行程≫桶川駅→(バス)桶川歴史民俗資料館(企画展開催中)→桶川駅(昼食休憩・埼玉文学館見学も)→浄念寺→武村旅館(国登録有形文化財)→木戸跡→島村家住宅土蔵(国登録有形文化財)→矢部家(市指定文化財)→小林家(国登録有形文化財)→桶川本陣遺構(県指定文化財)→中山道宿場館(休憩 トイレ)→一里塚跡→松山伊奈り道道標(市指定文化財)→木戸跡→桶川稻荷神社(市指定文化財)→桶川駅

≪申込・問合せ≫①「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(つくい): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③連絡電話 090-1990-4807(つくい)

新年度の「会員更新」手続きのお願い

- 令和2年(2020)年度友の会の会員募集(継続)を行っています。現会員の皆様には継続更新のお手続きの程宜しくお願い致します。
- 前月の会報に振替払込用紙を同封致しましたのでお近くのゆうちょ銀行にて年会費2千円をお振込ください。新しい会員証は3月会報に同封してお届けいたします。なお、土日に関く博物館ロビーの友の会受付、友の会主催講演会、見学会の受付にても承ります。
- 新しい年度も友の会を通じて知的な博物館ライフをお楽しみください。

妖怪談義

～河童で読み解く民俗学～

「河童はほんとうにいるの?」「河童の正体はなに?」などなど、歴史学の世界ではおよそ研究テーマとはなりにくい「河童」について、豊富なデータをもとに、大真面目にお話しいただくことで、民俗学の考え方や手法が少し理解いただけるかもしれません。

講座の内容に合わせ、埼玉県が自信を持って世に贈る河童の映画「妖(あやかし)の世界」も特別上映します。肩の力を抜いてお気軽にご参加ください。

講師の二階堂さんは、日本民俗学がご専門。各種の有形／無形の民俗文化財の調査研究を継続して担当されました。また、当館の民俗展示室および体験学習施設の企画立案と実施設計に初期から関わられた生みの親の一人です。

講師 **二階堂 実 氏** 当館主任専門員兼学芸員

日時 2020年(令和2年)3月11日(水)午後1時半～3時

(開場:午後1時)

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

ご参加のお申し込みは、**通常ハガキ**に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記の上、締切:3月4日(水)までに、下記の宛先へ。

〒330-0803 さいたまま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

*「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも応募できます。(返信はいたしません)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

人形博物館と人形工房見学

日本有数の人形産地として知られるさいたま市岩槻区に、人形をテーマとした日本初の公立博物館がオープンします。この機会に合わせて人形博物館と人形の頭造り工房(鈴木人形)の見学を企画致しましたので、奮ってご参加願います。



見学予定

岩槻駅(9時00分出発) ⇒ 愛宕神社 ⇒ 鈴木人形工房 ⇒ 長谷川家住宅
⇒ 時の鐘 ⇒ 人形博物館・にぎわい交流館 ⇒ 遷喬館 ⇒ 昼食(鮎又)

* 希望者には、午後より駅周辺の散策を90分程度行います。

* 昼食は、天保年間創業の老舗料亭(鮎又)の味を御賞味願います。

* 鮎又で昼食後解散(予定は13:10)と致します。

日時	令和2年3月19日(木)	雨天決行
集合場所	岩槻駅(東武スカイツリーライン)改札口周辺	
集合時間	午前8時50分	(時間厳守をお願いいたします)
参加費	2,500円(入館料・昼食代など)	当日集金

◎御参加申込みは

- ・ 締切期日 3月10日(火) ・ 定員 30名(先着順とさせて戴きます)
- ・ 会員限定ですが、ご家族・ご友人は御参加できます。
- ・ 申込方法 往復ハガキ にイベント名・会員番号・氏名・住所・年齢(人形博物館参加者名簿に年齢記載が必要) ・ 電話番号(携帯番号も)を明記し、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先までお送り下さい。
- ・ 宛名 〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
- ・ 見学会に関するお問合せ連絡先 048-756-5634 事務局 犬走 東道
- * 定員(30名)を越えた場合はお断りすることもあります。